

行政評価シート【分野別施策】

分野別施策 1 -

子育てにやさしいまちづくりを推進する

目指す姿

遊びや会話など、家族で楽しい時間を過ごしている親子に温かい眼差しが注がれ、子どもたちの笑顔を中心に周りの人々に幸せな気持ちが広がっています。

成果指標の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画策定時	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2027年度
子育てに関する相談件数 ¹	-	369件				5,300件
保育所等申込者に対する受入可能人数の割合	97.0%	97.7%				100%

1 こども家庭センター・こども発達支援室くれよんにおける相談件数のこと。

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

- ・こども家庭センターを設置し、関係機関との連携を図り、切れ目のない相談業務を行うとともに、支援ニーズの高い児童等に対し、見守りの強化や訪問支援を実施しました。
- ・こども家庭センターの母子保健機能として、ひらつかネウボラルームはぐくみを運営するとともに、妊娠から出産、子育て期（就学前）までの各種相談や訪問、健診、各種教室の開催、産後ケア事業など切れ目のない支援体制を整えました。また、産後パパ育休取得応援交付金を支給しました。
- ・平塚・中郡地域で唯一、二次救急を扱える病院として、産科・小児科の救急患者を受け入れ、地域の小児・周産期医療体制を維持し、安心して、出産、育児ができる環境を整備しました。
- ・保育所等の整備に対する助成を行うとともに、保育士確保に向けて、保育士確保特設サイトで市内民間保育所や本市独自の保育士支援策を紹介したほか、3市町合同での就職応援フェアを開催しました。加えて、一時預かりや病児・病後児保育など特別保育の実施、放課後児童クラブの増設を進め、受入児童数を拡充しました。
- ・保育所等における保護者や保育士の負担軽減に向けて、手ぶら保育の実施や民間保育所等のキャッシュレス化に加え、配慮が必要な子どもへの保育士加配を行いました。

施策を推進する上での「課題（・）」と、課題解決を図るための「取組方針（ ）」

- ・地域のつながりが希薄となる中で、孤立感や不安感を抱える妊婦・子育て世帯も多く、妊娠や出産、子育ての不安を解消するための切れ目ない支援が必要となります。
こども家庭センターの運営により、妊娠・出産・子育てに関する不安や悩みの相談対応や、関係機関との連携により必要な支援につなげる相談体制を充実するとともに、育児に関する適正な情報提供、健診や各種教室、産後ケア事業等を実施します。
- ・相談内容が多様化し、相談件数も増加傾向にあるため、特に児童虐待の早期発見、未然防止に向け関係機関との連携を強化するとともに、複合的課題への取組強化を図るため、関係団体等と連携した支援が必要です。
相談内容への対応が複雑化しており、相談支援体制の充実を図るとともに、関係団体と連携した取組を進め、支援ニーズの高い児童等の見守りと必要な支援につなぐことのできる体制の強化を図ります。
- ・産科・小児科の二次救急は、採算性の確保が困難な部門であり、安定した病院経営を継続する必要があります。
安定した病院経営のため、医師の確保に努めるとともに、市民病院の役割・機能を明確化・最適化し、休日・夜間診療所や地域の医療機関との連携を強化します。
- ・保育需要を見極めながら、待機児童の解消や保育の質を向上する必要があります。また、各地区の放課後児童クラブのニーズに基づいた整備が必要になります。
民間保育所などの定員拡大を伴う施設整備や小規模修繕を支援するとともに、保育士確保や入所児童の保育環境の改善を図るため、施設運営費などの助成を行います。また、放課後児童クラブの利用児童数の増加に対応するため、既存クラブの分割などを推進します。

関連事業

母子保健事業、小児医療費助成事業、地域子育て支援推進事業、ファミリーサポート事業、ブックスタート事業、家庭児童相談事業、地域療育システム事業、子どもの未来支援事業、産科・小児科二次救急実施事業、民間保育所施設整備支援事業、民間保育所助成事業、民間保育所保育士確保支援事業、公立保育所等運営事業、放課後児童健全育成事業、放課後等子どもの居場所づくり推進事業、特別保育拡充事業

決算額

	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
事業費（千円）	3,238,881			